

食育だより 7月号

今月の食育テーマ～夏の食生活を考えよう～

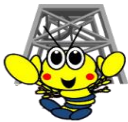
暑さに負けない体づくりを！

すでに気温の高い日が続いていますが、夏本番はこれからです。こまめな水分補給で熱中症を予防するとともに、食事をしっかりとって体力をつけ、暑さに負けない体づくりをしましょう。

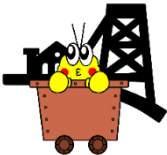


夏の行事食いろいろ

7/2 ごろ (夏至から11日目～七夕までの5日間)	7/7	7/13～16 (または8/13～16)	7月下旬ごろ (2026年は7/26)
半夏生 タコ 焼きサバ	七夕 そうめん	お盆 精進料理	土用の丑の日 ウナギ



荒尾市の万田坑は世界の宝



三池炭鉱・万田坑って？

三池炭鉱とは、昔、荒尾市と福岡県大牟田市にあった石炭を掘り上げていた場所で、万田坑はその一つの坑のこと。石油以前、エネルギーの中心は石炭でした。三池炭鉱では良質な石炭が大量にとれ、日本の近代産業を支えました。1902年、技術者たちの力を合わせて整備された万田坑施設は当時「東洋一」とも言われました。今でも万田坑には施設の一部が良好な状態で残っています。

なんで世界の宝（世界遺産）に？

世界中にある「文化に関する遺産」や「自然に関する遺産」の中で、特に大切なものであると認められたものが「世界遺産」です。日本は江戸時代の終わり頃から、約50年という短い期間で、鉄や蒸気船をつくる技術と、石炭をほる技術を身につけ、産業化を成しとげました。これは世界的に見てもすごいことで、万田坑を含めそれらを今に伝える施設が、2015年に「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」として世界遺産に選ばれました。



最盛期の万田坑



石炭を掘り出す作業のようす



使える石炭と石炭くずを分ける作業のようす



荒尾市内に多く見られた炭鉱社宅

12 食育を推進しよう



今年の給食でも、万田坑などが世界遺産に登録された7月8日に登録を祝うこんだてがあります。黒豆ごはん、黒ごま入り根菜団子汁、ひじき入りお豆腐しゅうまい、ブロッコリーののり佃煮あえ、一食黒糖大豆と、メニュー全体が石炭をイメージした黒色になっています。明治から昭和の時代、荒尾市の万田坑で掘られた石炭が、日本の工業を支える大きなエネルギーとして使われていたことを想像しながら食べてもらえると嬉しいです。